

平成19年度入学式 学長式辞

愛媛大学長 小松 正幸

本日ここに、平成19年度入学式を挙げるにあたりまして、愛媛大学を代表して、皆さんの入学を心から歓迎いたします。全国各地から、また、外国から、併せて2,008名の若々しい皆さんを愛媛大学の新生としてお迎えすることができました。

この佳き日のために、ご多用にもかかわらずご臨席を賜りました、吉野内愛媛県副知事、愛媛大学校友会・同窓会代表の皆様をはじめ、各方面のご来賓の方々、愛媛大学名誉教授の先生方に厚くお礼申し上げます。そしてまた、入学生の皆さん方のご家族をはじめ、ご関係の方々のお慶びもひとしおのことと存じます。ご列席に感謝申し上げますとともに、心からお祝いを申し上げます。

さて、新生の皆さんはこれからが大事なときです。大学生活は、皆さんが責任ある社会人となるために、自分の生き方を見つめ、真の自分を発見し、生きる力を身に付ける、人生にとってかけがえのない期間です。

大学生活を始めるに当たり大事なことは、何についても学ぶ意欲を持つこと、自ら課題を設定し、それについて徹底して学ぶ努力を続けることです。

まず、高校生活と大学の授業の違いはどこにあるのでしょうか。皆さんがこれから受ける大学の授業は、これまで高等学校で受けてきた授業と大変違ってありますし、きっとびっくりするかもしれません。たとえば、高校の教科書でも、日本史ですと石器時代や縄文時代から順に現代まで概括的に記述され、非常に幅広い事項について述べられています。高等学校までは、全体に浅く広く学ぶように配慮されているのであります。

しかし、大学の講義はまるで違います。私自身も戸惑いました。大学に入って1年生の教養教育で日本史を取ったところ、それは、「中世における荘園の変遷」を主題とする講義でした。哲学については、「カントの純粋理性批判」に関する講義でした。もちろん教科書もなく、どういう勉強をしたらよいか皆目分からない、という状態でした。

最近ではさすがにこのようなことはなくなり、シラバス（講義案内）に授業の詳しい内容や学習の到達目標、参考書などが示されています。しかし、内容については担当教員の専門を中心に話がなされるという点では変わらないと思います。

愛媛大学は3年前、国立大学法人として再出発いたしました。その際、「学生中心の大学を目指す」ことを基本目標の一つとして掲げ、教育の内容や方法についても日々改革改善の努力を重ねているところであります。

いま、大学では教員に対して、分かりやすい方法で、学生諸君が興味を起す内容の授業を行うよう、改善の努力を要請しております。そのため、以前よりは格段に授業内容が改善され良くなっておりますが、それでも、皆さんにとって、やさしい、分かりやすい話のみを教員がするとは考えられません。これから、皆さんが、知のフロンティア

に参加し、困難な学問の山を登るために、じっくりと勉強をおこない、理解力の水準を上げてゆかなければなりません。人生にとって本格的な学修の段階がここに始まるのであります。そのためにも、他方で、皆さんに対しては、授業を受け身の姿勢で聞くだけでなく、参考書を読み、自分で参考書にあたり、学友や先輩たちと議論し、教員に質問するなど、自主的な学習活動を積極的にしていただくことをお願いしたいと思います。そうすることによって理解力が飛躍的に高まります。これが大学で学ぶ面白さであり、本当に力がつく学修方法なのです。

ところで、皆さんが大学で学ぶ目的は何でしょうか。それは大きくわけて二つに要約できることでしょう。

大学で学ぶ目的の第一は、いうまでもありません、知識を得ることです。どの学問分野であってもそこには長い間に人類が行ってきた研究や実践や思索によって歴史的に蓄積されてきた知識の体系があります。ですから、自分の選んだ専門領域に留まらず、意識的に広い範囲の知識を教養として学ぶことが大事です。実際のところ、私自身にいたしましても大学で学んだことは具体的にはほとんど覚えていませんが、一度あの講義を聴いた、自分でこのことは勉強したという経験そのものが人生にとって重要なのです。これはいわば、知識を入れる引き出しを用意するようなもので、中身は空っぽでも、入れるところが用意されているかいないかでは、将来、また勉強するとき大変な違いが出てくるのです。中身の知識はすぐに陳腐化しますから、必要な時にはまた勉強しなければなりません。現代では、私たちは、一生懸命勉強することが求められます。そのとき、大学で聞いた、学んだという経歴が役に立つのです。

しかし、大学での学習は、知識の体系を学ぶことに留まらず、どのようにして新しい知識を創造するか、そのための原理的で基礎的な知識は何かを学び、新しい知識を獲得し、さらに、真実を導く方法を学ぶことも含んでいます。このような判断力、考える力や構想力が本当に身に付くには、自分の考えを自分で組み立てる実践的な学習、ゼミやグループなどでの集団的学習が必要です。

皆さんはコンピューターの使い方を習得していると思いますが、インターネットに象徴されます情報科学の飛躍的な発展は、情報・資料の蓄積、伝達、検索の方法を根本的に変え、今日ではこれまでとは比較にならない程の豊富なデータをわたしたちは容易に入手することができるようになりました。しかし、インターネットで得られる情報がすべて良質のものであるとは限りません。情報は見かけの上では膨大でも、質の管理がないという問題があり、中には悪意に満ちたもの、間違った観念を与える情報、人間性を傷つける誘惑的なものなど多種多様な情報が含まれています。これらの中から、良質の情報を選別するには、総合的な判断力、思考力、批判力や普遍的な価値観を身につけることが必要です。これらは大学での集団的な議論や個別指導などの中で鍛えられ、体得するものであります。

皆さんが大学で学ぶもう一つの目的は、大学を卒業後、自分にあった的確な職業や活

躍の分野を見出すことです。大学生活は職業人への貴重な準備期間であり、そのための学修の機会でもありますから、これからの社会が何を必要としているか、自分は現在の社会に対して、どのように新しいものを付け加えることが出来るかを深く考え、それにマッチした目標をもって学習に取り組むことが大切です。愛媛大学では入学した初年度から企業や自治体などで実習を行うインターンシップや職業意識を醸成するためのキャリア教育に力を入れております。このような場を活用して、自分にあった職業分野を探し、理解を深め、目的意識をしっかりとって勉強に取り組んでいただきたいと願っています。

さて、二つの目的を通して最も重要なことは、大学生活こそが人間的に成長するきわめて大切な期間であるということです。

「人間的に成長する」ということは、大人としての分別や思慮を持つことだ、と言いかえてもいいでしょう。自分の精神的状態を冷静に省みることができ、他人を思いやることができる、さらには、将来を予測したり、計画を立ててしっかり行動することができる能力を身に付けることです。

このような能力こそ人間を他の生き物と区別し、そのふるまいを最も人間らしくする知力です。この人間らしいふるまいをつかさどるのは私たちの脳の中にある前前頭皮質だそうですが、この部分はほ乳類の進化の結果として、人間の脳の中では最もあとになって形成されたところです。私たち一人ひとりの個体としての発達過程でも、前前頭皮質の発達是最も遅く、18歳から25歳までかかるということです。ここが発達することによって人間らしさ、大人としての分別が備わってくるわけです。

このような人間としての成長は、皆さん方のこれからの学生生活の中で、仲間との会話や討論、協働、共同作業、助け合いの中でまさしく達成されるものです。大学生活とは、教室での授業によって学ぶとともに、研究室やゼミでの学習や、サークルや同好会やボランティアなどのグループ活動の中で、新たな経験や知識を得て、社会の主体的な働き手として成長する機会でもあります。このことから見ても、大学生の時期が、一人の人間の一生にとって、いかに重要な時期であるかが理解できると思います。

これから皆さんが送る学生生活は、おそらく愉快的なことばかりではないでしょう。学習上、生活上において、皆さんは様々な困難に遭遇することが考えられます。

さまざまの困難を克服し、自立心を養い、人間的に成長する気構えをもつことが必要です。先ほど、脳の話しをしましたが、脳は人の営み、振る舞い、心のありようなど「人となり」のすべてに関わっております。脳が正常に機能すれば自分の能力を十分に発揮することができ、大学生活も、これからの人生もうまく生きて行くことができます。そのためには、脳を大事にすることが重要です。若いうちに大酒を飲む、喫煙するなど脳を痛める行為、頭に強い衝撃を与える危険な行為などを避けるよう、普段の心がけが大事です。また、知的活動や運動によって適度の刺激を脳に与えて、その活力と発達を促すことが大切です。規則正しい生活と熱心な学習、適度のスポーツによって心身ともに

健康な大学生活を送っていただきたいと思います。

皆さんは、もちろん個人的に解決できない様な種類の問題に出会うことも十分考えられます。本当に困ったときには、大学教育や学生支援に携わっている教職員に、いつでも遠慮なく相談していただきたい。

また、最後に、若い皆さんに特に強調しておきたいことがあります。

どうか皆さんは、自分のことだけに熱中するのではなく、同時に、自分の身近な友人にも気配りをしていただきたいと思います。これは大学からの皆さんへのお願いであります。最近とみに孤立しがちな学生が増えております。また、不幸な事件に巻き込まれることも少なくありません。教職員と連携し、学生諸君が相互に手を携えて、学生生活を真に充実したものにしていって欲しいと心から願っております。

皆さん方の充実した学生生活を心から願い、式辞といたします。